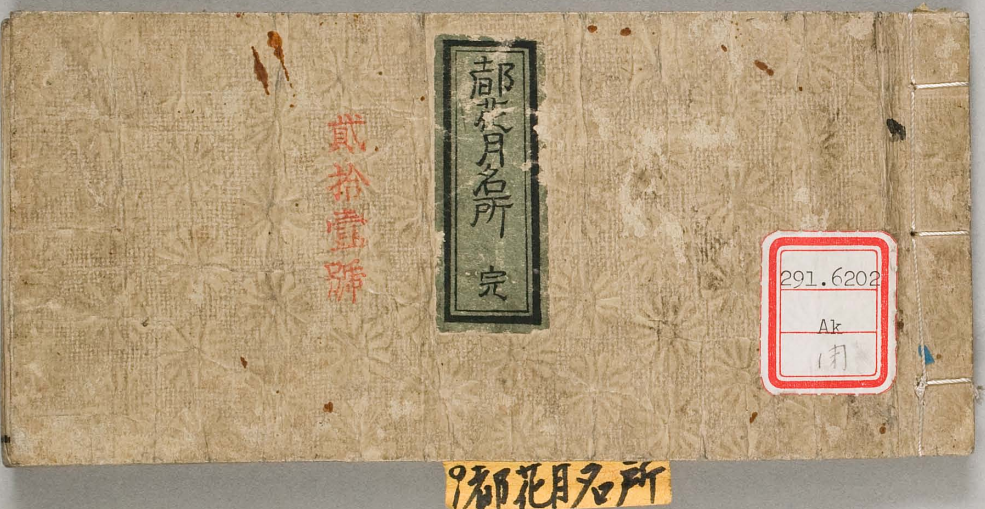
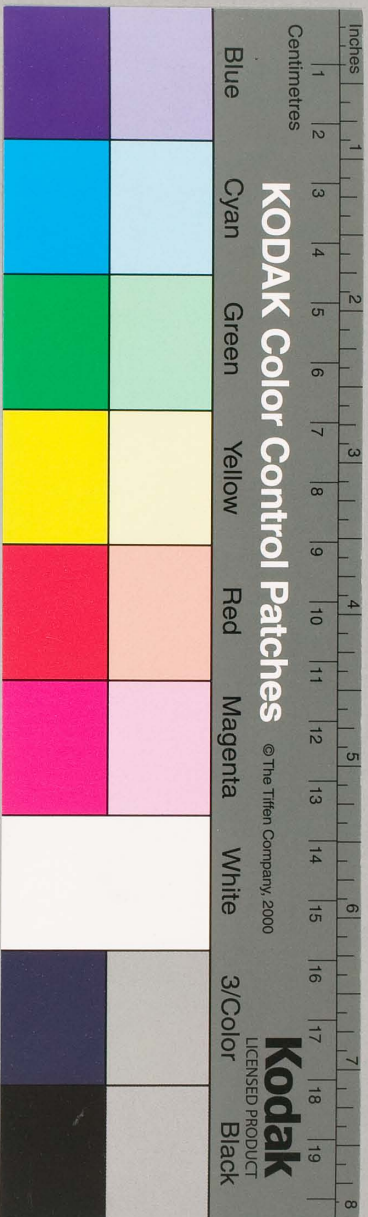


0427



都花月所
完

貳拾壹號

291.6202
Ak
用

都花月所

叙
風月烟霞之清美茂
林脩竹之幽致惟時
之與境相得則其賞
愈清逾幽有文者而
文之咲語蟬聯吟舞
需湧相忘於塵外吟
是乎自然興到造化
秀鍾焉秋里子香掌
大之冊以寄區區之
勝槩而陸續品評寫
謝屐所未及猶逐之



武庫川女子大学図書館	
昭和53年12月22日	291.6202
178925	Ak

然曼之務云殆不讓
汝幸也月旦亦惟
自然興到造人秀鍾
焉有文而文之者此
冊以文之矣不可勝
賞也

寬政癸丑年顓日

浪華 隨八菴主

心會鼎書



帝京花月

史一帳備

之子編地

盡中術得

能換骨僊

秋里籬寫



都花月名所

目次

○花ハナ

左サ 四ヨ 目メ

○月ツキ

右ミデ 三ミ 丁チ

○雪ユキ

右ミデ 七シ 丁チ

○丹楓ニハナ

左サ 三ミ 丁チ

○梅ウメ

右ミデ 七シ 丁チ

○桃モモ

右ミデ 三ミ 丁チ

○欬冬カキフユ

左サ 四ヨ 丁チ

○藤フジ

右ミデ 三ミ 丁チ

○燕子花カキツバタ

右ミデ 三ミ 丁チ

○蓮レン

左サ 四ヨ 丁チ

○秋アキ

右ミデ 三ミ 丁チ

○松マツ

右ミデ 三ミ 丁チ

○石イシ

左サ 四ヨ 丁チ

○瀧タリ

左サ 三ミ 丁チ

○清水シメツ

左サ 四ヨ 丁チ

○郭公ホトギス

左サ 三ミ 丁チ

○鶉 ウツ
左 ナナ

○水鳥 ミヅトリ
右 ナナ

○鹿 シカ
左 ナナ

○蛭 ヒル
右 ナナ

○河鹿 カシカ
左 ナナ

都花月名所

穂里湘夕著

○看花 ハナミ

○御室 ミモロ
水戸の西

當山ハ俗ハ此名區カニ
昔々橋多ク山嶽近
ニ常ニナギニ枝葉
ニ陽ハ屈曲タガ
ス株の花盛ニ下部
春の錦を以テ
ナニ云々色の人富貴
時を以テ後世ハ袖



室を後女の姿なり一糸容

ろ。烈疾を多くて人あらず

報貨の交易。依日花あつ

し。新々秀吉家譜にえへたり。

山後多し一威ハ主番と

六七八日ありて一様

山後多しと上の碓砌を

○花奇 洛西 大原野

小橋山勝持寺こ号次橋多

西りの旧蹟へ堂お小西り橋

りり又天武翁長嘯子の墳

幽遠無塵の地

老木の根たわく嘆をそ

今つまらむ花もあらず

○大覺寺 北嵯我

真言の雲河より開基ハ恒

寂法師の皇子あり代名法

親王寺職しと境内ハ山後

多し

○長岡天神 西岡 南田

宮殿近年修補ありて美

あり社頭を比定し橋多

○鞍馬 小山

著天武孝友王子ハ龍小

所を逃びりて鞍馬の馬

ハ繫だりたりと隔と

高き山々、満の山は、
 多岐にわたり、

洛西
二条の西之

クダラシ
を降ちと号す。聖徳太子
は、疑立初へ。八重松多し。
又吉佐の石燈燵り。左ウツミナリ秦アサヒナリ井
といふ世亦名する。

玉島の東
後田邑

ジドウレ ヨカタイン
神堂ち金剛院と号す。昔
テシブセシトクジヤ
和列金峯山、毒地出て及び

登山の人必悩む。故京
 麓崎と大崎よりけ山を吉
 取ふ。准一と藏王堂山へおこ
 コモリカツテ
 子ち勝一の兩社に参勤。後
 ム多シ
 後山を油堀山と云ふ。今小
 橋多し。

洛水雲烟
出谷邑

金峰寺と号す。一巻居たり

二王門を二六町を右へ、道木の
 蔭へ、^{ゴライノミナト}後京良院番八右株此
 櫻樹を、人々をのみ多くハ
 山さへん

○雙林寺 洛東

初ハ天台の別院ハ園上人時菜
と改むあり候あり庭あり
預く花のやそを死あへ
よききとての金月の夜
あり上人の位より双林寺とふ
所を楚むといふ候あり
ありとて世に世に
ありとて世に世に
ありとて世に世に

○金剛寺 洛北

鹿苑寺と号次足利義満公
此建立ハ北方の寺観あり
園前此寺に候あり

○八幡山 洛南

社頭ハ寺向候あり又山下
宿院ハ山様あり

○寂光院 北大原

建礼門院の品蹟ハ之の候
保羅垣あり後の山を羽来集山
といふ

○西来四神門 洛東

元和年中金北院の奉光園師
ハ台寺ありと再興あり社頭
字活橋といふと坂洛の間様
多し

○西芳寺 洛西
茶室

年

知和

大洛
佛东

直言新義の本意。山極

多一何止大木乃三月
止日^{三五}影供示諸人^{シテ}群^{シテ}後

○
平
金

洛水

即座乃八桓武天皇御遠立
乃社頭小極多

○
に
か
く

洛東

山嶺多し。地之傾け
多し。世に名高し。

地はかく木の方北の都ふ
 季吟
 其角
 京中へ地への候や飛胡蝶

信及胡中

○北白川
志賀山城

山洛八チ近ナ加ナ長ナ等ナ山ナ志ナ賀ナ里ナ

唐崎へ出入

詞花

小式内傳

千載
花還元春

かけはき花の繞とみぞ哉
歩岡ふすの五川乃多

山

小塩の山上

7

山様

汪倫

下山差山我

子孫

夢中後夜とてふ半を
玉の露花にて人くゆふ
蒙
春風のそとちふとる其ハ
さめも胸のさやぐ人く

○長樂寺 洛東

むうハ天名の別院人の中
長樂寺此凡京不似すもそ
や名りハ洛陽の萬戸眼下
不見ゆ

本朝文粹曰 高岳相如

夫長樂寺者形勝之其一也山
頭東峻望勢為安於不退地
前野面西平顧鹿苑於無漏
界之右 下畧

○日野茅沙 醍醐の南

は里とてふ春そ草所如來

ふ世の人乳出の利預を籠
至驗り。堂前ニ極

○銀閣寺 洛東

原ハ東山殿 足利代の山莊
義政公の山莊ニ
在り小方園有り。相の縁を以
道子履の跡を多

○清涼寺 上嵯峨

いハ融た春の別莊人本ハ
栖霞觀と称す涼順殿小有
権り候といハ差我天皇崩
一のふ時遺詔あり權を以枝
不金一とを

佛身杖えり花の白ひが
湘夕

○車物社

下山差我

キヨムクニシ^ヲヨリナ
信原真人頼業を多。校^{サセテ}
抄^スす。多者々々社頭小橋
橋株あり

○冰室

洛小野郷

明神主の。延喜式曰山城を
 比叡心所の氷室此四趾あり。

初予諸國示五石九十六所冰室

十載

越のいふるあふはちうを
 原仲

トさし氷室の山此とを極
き人好む雪ととも月人好

○花山

シタニ
瀋谷の東

久松山ノ喜八寛和二年花山此
久松山ノ喜八寛和二年花山此
久松山ノ喜八寛和二年花山此

傍正遍昭シテト止住シテ一花山僧正

と号次へて此山松花

年

石山ふまのりするふふ不傍立
通昭々室此の橋此

律守國基

あゝるを住まふ極楽
と云ふの事や云き

○カシダイ
る其ち
洛東

洛東

トヨトミ
豊臣秀吉公
錦書方谷
カモクヲキリカマ

名差と取とを小植ウレしぬ。

又坊中不燒檼立乃世名之

○
赤山

修各
子
村

社頭小山様多し

○幻櫻

洛東
新然野

劔宮の北芳基あり。

元院上皇の宸跡泰少

お局空くあり。後上皇

愛憐共く退福の香芳文

品公書写の書時の局幻現れ

親を代り。お係を哀憐

す。おもの存る。おの

親をそと移。又局の愛樹北

様をさす移。柱てお名ふ

風ふりくおのす。開

おのす。おのす。開

○直捨菴

細谷

福宗英傑依て獨笑和尚
のる剣を中様多し

○勧修寺

山科の南

は親王御寺職。おのる

お十五勝り。池を氷室と様

様の様多し

○曙櫻

上京
馬口

間野空あり。後水尾の帝

此御製。おのる名と

おのる。おのる。おのる

おのる。おのる。おのる

○金福寺

洛水
一乗寺

御宗。御宗。御宗。御宗

之記

人ちる

[illegible]

御神詠

我ながらをこの桜の下さう
くさくさへの方さうめん
はあふより山崎梅を奉獻そ
仕發し禮をゆき多し

カウヤタウ
有野堂、
称次。山
樓多

人康親王の蹟之伊勢物語出

○時雨櫓

ツキくらテラ
月波の

室也上人止住の一時日暮の
龍う龍女現ると上人教化
ウケ
か受て佛の堂より龍女水
サゲ
を捧ぐ其時より時雨初と

東本願寺の廟所へ。燒田小極
多し

ツクリニ
トウヤンシ

双林の上東漸寺の庭中あり

モト
ニウコクナニ
イトナニ
原ハ大相國忠仁公の宮なり

真觀寺の旧蹟あり。今墨染寺

といふ後世准植といふ

古今

此寺此所の傍にありん

○大佛

洛東

大佛殿の南面廊外日吉の社

頭或は妙法院御にあふ葉

の極ぬ株あり

○小督櫻

下山差哉

三軒茶店の竹林の間あり

其外天龍寺の在中臨川

鹿王院等小橋多し原ハ

差哉天皇仙院を宮の舊

跡へいふ龜山南小嵐山中

大壺川云うへ流る。其秋の風

系足る流るゝ年耶。實ハ

天下の腸比と云居所房郷

書のひハ道ありん

憶龜山

前中書王

憶龜山。龜山久々往還。南溪

夜雨花開後。西嶺秋風葉

落同。豈不憶龜山

○賞月 ツキミ

○指月 レダツ 伏水 エミ

豊臣秀吉公樓臺を築た
名月を賞しつゝふしを月
見園とす。又宇治見山と云ふ。
麓に月橋あり。東に宇治橋
西に八幡山崎の翠巒さかづ。次
淀の城木幡の関。前六字迄の
依れつゝふ俗々々々。南に大
棕北に水。方一里不遠。舟
橋あり。凡そ如き名月の
紋々々々。臘月の勝勝々々
は此の勝々々々

玉葉

法永惠基

山をたを記するハ及て
月かそを記するハ及て
修験
文のハ檀越を山か
月かそを記するハ及て
千載
かふつを記するハ及て
福永
かふつを記するハ及て

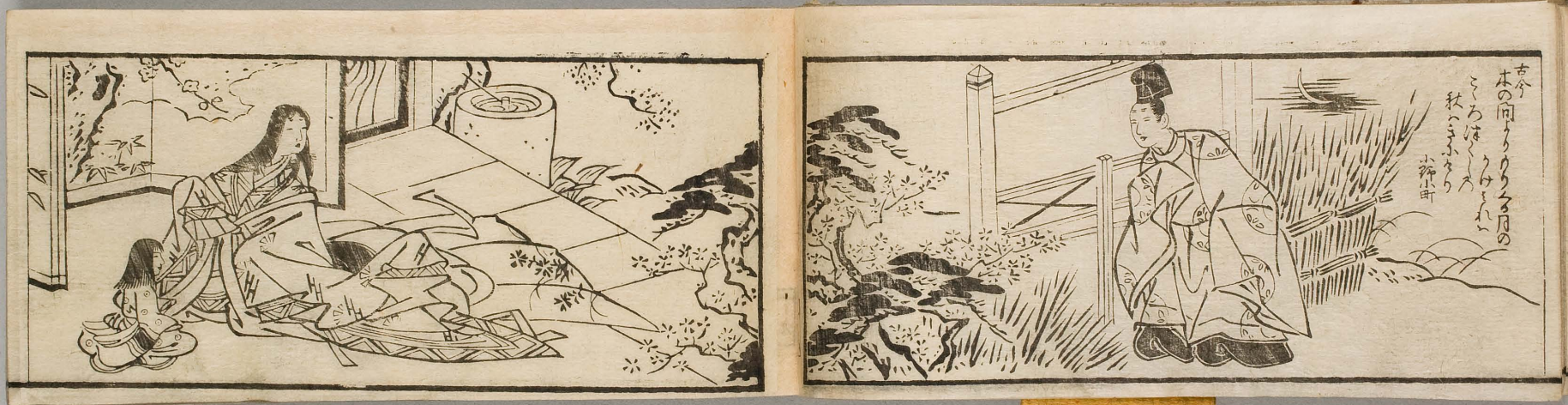
○有明寺 アリアカテラ

比叡山 無動寺

於王

大僧正慈鎮

ふれい々々。吾々の山後
ふれい々々。吾々の山後
日枝山多知の大家院に
慈鎮和尚住す。其方より
有明寺といふ親王聖人
小棲のふれい々々。吾々の山後
琵琶湖へ眼下わけて淡路
八幡寺と云ふ。其方より
中秋の月を賞する佳境



古今
本の間よりりる月の
うはるる
秋へふたり
小辨小町

かて清光湖面に映し
千里を共にて更亮に樓を
ひらん

金とのおけん 月の 相夕
とち里

○観音寺 山崎

天王山の東半腰にあり。麓に
淀川を布。淀の城淀に
車橋よりく川順をま
帆ひ舟。塘をつつ細引
橋が楠梁の舟をひ移る
宮居も眸に遠て烏猪の客と
なりぬ

○笠置山 木津川上

本堂の側は佛像を鑿ち

太岩にけりては後醍醐
皇居の四蹟より東にたふ
是と伝ふ泉川にあり
ては浪巖を砕く勢ひ
み流の委曲驚蛇に似て流
三子尺銀の九天よりなり
なり

後成女

○核敷嶽 俗に岩屋と
いふ

惟高親王遊談眺をの高樓
より一所に南方一面を晴み
平安の萬戸就萬峰笠置或
生駒萬城のさ限も眼中に
客とありぬ作は親共

文徳天皇の皇女小野宮と稱す。今四
代をいふ。絶頂にありて月を
賞する所の佳境なり。

○釣月 宇佐嶺

宇佐川の西谷へ谷へありて
足利義昭公樓臺と云ふ。中
秋の月を賞する所。西小嶺に
江崎と云ふ。亦喜撰獄。伏見の
松月榎あり。釣月一雙
の地へ又耕石菴と云ふ。額あり
抱所なり。

○空鉢跡 龍峯山頂

此山峯山加中二の志山嶺なり。

小琵琶湖の水面を遠く
南六志貴生駒金剛山乾六
雄波津西の洋々市海邊
兎鬼一輪を響き應の勝地
何地をいふ 志貴の南にありて

○達摩堂 八幡志水南

近々天明三年の遠きなり。
福寺と号す。達摩の像

ハ古大和國葛下郡達戸
寺に在りて中江八幡の社
司の移し又中江遷坐候
此より西南をいふ牧方清
院の機城勝尾古箕面山
ありてへく月を賞するの
勝地なり

○ 廣澤
ヒロナハ
北山差哉

のふ名古曾の唐め登大ねろ。
 ヘン^{ヤコノ}セウシ^{シミツトミシ}キウネキ^{ノミツ}イヌヤ
 遍昭寺の四伯ハ此の乾おろ

ふりへる中秋の月と賞合ふ

名境之

後於
壬辰の月を足る
範永

住人ゝあは山里の秋の夜ハ

月の光もさへくさるる

新平
松政

月をさめたる廣はの池

○
月ツキ倚山ツヤ
銀閣寺

中境の東永堂客中より
トウグウタウカクキ
ニヨ牛刀
如意

山嶽の月を賞之に

香唐ハ月山の 足利義政公
明々々々の 方々々々

渡月橋 下差哉

大堰ナニ川の流ナニ架カタと多タ

上六浪花隈。叫猿峽。君羊書。

森島船難。あまのな名區あり。

懷富先生詩卷游觀之四

名を改めみち詩を
あや思ふ

綾千
定家

己か世の王たる彼この月を以て
を人々を結ぶ之を以てめる

大井川のふちを曉乃

後於

大ナリ也又幾極多而此言
々臣等の床此有歌

○
蜂小川
賀茂

此河を不賀^{カニガハ}下上此

社頭老樹林チトリノキニて木前

乃月の影カゲはく川カハはきく

鈴スズの音ネもきく海ウミもみく

一輪イツリン千里實センリ小コ嫦娥空セウガクウ

玉タマ子コををれをるる魚イサ也ヤなり

長明チヤウメイ

石川イシカハやや標ヒラの小川コカハのの流ナガレん

月ツキももななれれををたたつつてて此ココととむ

後撰ゴゼン

玉タマ葉ハののああるる庭ニワはは夜ヨをを照テるる

山ヤマ合カのの神カミのの月ツキをを照テるる

玉タマ葉ハののああるる庭ニワはは夜ヨをを照テるる

如泉ニョウセン

ああるる月ツキをを照テるる

如泉ニョウセン

平ヘイ等トウ院イン 宇ウ治チ

前マエハハ宇ウ治チ川カハののかかれれ俗ソク々々

山ヤマ吹フキ簾レン子シ多タ瀬セをを

りりうう舟フネ橋ハシ上ノののりり人ヒト美ミ奈ナ

窈窕ヨウテウ窈ヨウ窕テウ々々足タラシんん足タラシんん

斗ト牛ウ形カタ

ささりりろろやや俗ソクのの秋アキ風フウをを吹フク

月ツキをを照テるる

永通院エイツウイン

ありありハハ花ハナのの山ヤマののああるる庭ニワはは夜ヨをを照テるる

月ツキをを照テるる

月ツキをを照テるる

月ツキをを照テるる

大オホ荒アラ木キ社シャ 徒オホ永アラ岳タケ

徒オホ娘メ社シャのの木キををつつくく向ムカふふ

徒オホのの城シロ川カハ傾カサををめめるるああるる

新ニホ皮カ不フ通ツウくく舟フネのの流ナガレん

情ナニみみくくくく月ツキをを照テるる

古コ方ホウ多タ々々

古コ方ホウ多タ々々

古コ方ホウ多タ々々

古コ方ホウ多タ々々

古コ方ホウ多タ々々

古コ方ホウ多タ々々

古コ方ホウ多タ々々

名月や汲虫もまた言水

揺く灯るや 兔葵

後ミナノフシの俗

○都富土 日枝山

愛宕アタゴ一名右又洛陽堀川

一条より又れた駿河の宮示

心より忠告の所とてみ

於て 後人等

おののけふふふとわかれ

なれあといふれあ海を

○大澤池 北嵯峨

池オホサワ中ナカ小菊の島を湖石の

影後古 後成

大はの池にたふふりり

かりふとめ 秋のふれ月

○月輪 洛東 東福寺

原東福寺ハ九條殿歴代の

山莊ヤマサ殿下兼實公と此

不後住一の東嶺の月を

賞一のふふ月満ちて

秘と共御子光明寺も道家

公は法入一山莊を聖

一圓師小所屬一のふ時

人四至の文小月満ちて

除とては是地名の證あり

愛宕の月満ちハ兼實公

山居一のふ月満ちて

○放生川 八幡

中秋三五の日ハ八幡宮の例

祭りて勅使立の神樂の

神事ハ吉樂なりて名月の
皎々たる空の素氣ハ一ハ
感を傳ふ

徳蓮法師

千載
石居あきと流の之をハ
マハ月又之流ありハ

後拾遺
神代ヤ代々絶えぬ清水

月ハ久一き氣ハ流ハ

後後撰
あけとせよふかりハ男山

わく年とくハ月ハ

○秋の山 城南 名羽

名羽院離宮の四蹟ハ其外

名跡ありハ名を澤田

おはくハ月を賞ハるの

佳境ハ

後名院
せりハ名羽の月ハ月ハ

名羽田の里ハ衣ハ

大一天皇

里の名ハ久一ハ名ハ山城の

名ハ衣ハ衣ハ衣ハ衣ハ

衣ハ衣ハ衣ハ衣ハ衣ハ

衣ハ衣ハ衣ハ衣ハ衣ハ

衣ハ衣ハ衣ハ衣ハ衣ハ

衣ハ衣ハ衣ハ衣ハ衣ハ

○桂里 洛西

大堰川の下流をあけてハ桂川

こハ桂川極殿の御領あり

別荘あり。名ハ微妙ハ名

名ハ微妙ハ名ハ微妙ハ名

名ハ微妙ハ名ハ微妙ハ名

名ハ微妙ハ名ハ微妙ハ名

名ハ微妙ハ名ハ微妙ハ名

名ハ微妙ハ名ハ微妙ハ名

後千 里の名もあらず長月の

月の桂北秋乃こゝハ

桂の里の月をく借かた

新千 山階入道太政大臣

新千 秋のふとひの名ふらうれつ

新千 大井川おもハ桂の月をく

みうたてゝあそびの白玉

ハタカンゴラセ

は金剛院なり又長泉寺ハ

兼好法師の旧趾と遺る

入道一羽

○河原院旧蹟 洛中

今の入條橋の南北鴨川の西岸より

西より一帯の水北園中ハ

足つる印ては辺離考と称々

月を賞する佳境ハ

河原院賦 源順

有院無隣自隔麗塵山吐

嵐之漠漠水含石之磷磷

丞相遺幽居難忘前主法

王無敵覽猶感後人其始

也軒騎聚門綺羅照地常

有笙歌之曲間以弋釣為

事夜登月殿蘭路之清可

朝暗望仙臺蓬瀛之遠如

至是以四運雖轉一賞無

下畧

右本朝文粹出

○三本木 ボシキ 洛中

賀茂川の西岸二条の山町
討ちたり又新河原町されし
鴨川のゆゑへ三條の南に俗に
ゆれしといふ山の月を賞
しと洛下松本の地へ

○新更科 シヤシキ 洛東
安井あり

此地も花頂ハナタカ警備の月を
看の勝地へ近き人々建
ちあふらんといふ減を

○賞月橋 ツギコシ 洛中

七條の南堀川の橋より洛東
豊國山を及べし信加更科鏡
臺山お似たりといふ名あり

昔は公人不同り月と橋
難き

○看雲 ユキミ

○五條橋上 洛陽 コトウシキヤウシヤ

又條橋上羊々東山茂
尺度也北日枝のる根。
山生山如意嶽栗田山花
頂吉水の木の間くあふハ
磐尾岩栖洞を雲霧の山
山を羽山歌中山泉涌
東福祿の光明の三嶺
その月あふ渡うちの
風色洛中よりあふ
千載 千載 信州
きよさや都の人かおらん
けさ山里小拂ふわを

○芙蓉山 ワウハク 大和田庄 萬福寺

居え禪師因基のひて
伽藍六中華の形象の模
殊六舌裡の風え又あふ

○衣笠山 キヌカサ 洛北 等持院

むー寛平法皇無き月の
光景は避んとて深き眺
を催し七山白蛇の蛇
をさう麓まで張るを冬
の氣色に摸くやふ会
雪の日は昔の竹ありて眺を
斜め又仁治年中肉太
居る京家良公別荘此

造るのみ故に衣笠南方巨云

新二帖

衣笠四方巨

大内山のふりくぬく

又洛西葉室も衣笠内府

の山莊なり後小寺より地蔵院

より今ある

○神樂岡 洛東

カゲラカ

岩のりく吉田のふり

瑞籬にちちちち神の瑞籬

玲瓏にちちち神鈴の玲瓏

た

曙の空見

湘夕

神をみ

○千代古道 小峯峠

チヨノフルミチ

千世の古道と云御代の

記しりきの絶ずを

詠むるが佳例と云

瑞籬にちちち神の瑞籬

免園にちち韓愈の免園

豊年の嘉瑞なり

新二帖

原備元

さうの山と云の古道

又ちちちちを月の

○霊山 洛東

リヤマ

バツレヤ

千代舎うり度なる洛陽の

萬戸略川のうり度なる

雄の山と云山崎の通

目中の遠海洛下の花庭ハ

此院々の風系をみて響き
山々ありて山とてあらず
眺望を人々後より西の
ふけの月お目の光を照らす
郊の者ハ皆こゝろをみ

○北野社 洛北

初言ハつねねへ落神家
向うの山々を聖廟へ往
く諸君を缺く事ハ
古々の流例うゝ今も又
是れ古人多し。され風雅の
盛徳なり。まふとあぐ
ハ雅 生初 一衣の松北野ありて
神の宮かとも世やうづらん

○雪大文字 如意山

七月十六日夕常聖王雲の
送る火にて峰を著る
大文字火を焼く其焼火
と穴北野小野焼く事
眺と那を言のふ人云
大文字北野の山 舞福
方の影

○小野 洛北

岩屋北小野。又北大野
あり。兩所とも幽邃の地
無のりちるを詠する
金葉 絶信
初言ハ松のたぐひ
とや小野山の冬は
い載 赤松とて通じて
ふくも言ふ成小野に
後 都ふも初言ハ松のたぐひ
其本の炭の焼くまう

賀茂カモ

鴨 夕毛

紀

2

仲樂

ら

天

名

か

不風

五

4

野宮 ミヤノ

山差山我

勞

後

來

[illegible]

之

名

の
名

不

子

木の

の

戊午

七面山

七石

寶

原^ハ地^ハ昭^ハ宣^ハの^ハを^ハか^ハひ
 一^{コノ}松^ノ樂^ノ吉^ノの^ハ蹟^ハへ
 後^ハ氏^ハの^ハ名^ハを^ハか^ハひ
 乃^ハて^ハ名^ハの^ハ傳^ハの^ハ里^ハ

○丹^モ楓^{ミナ}

○高^{タカ}雄^オ山^{ヤマ} 洛^ロ北^キ

神^ジ護^ゴ寺^ジと^ハ号^ハを^ハむ^ハう^ハと^ハう
 紅^{ベニ}葉^ハの^ハ名^ハ所^ハや^ハ秋^ハ北^ハ
 赤^{ベニ}錦^{キン}の^ハ名^ハ所^ハや^ハ秋^ハ北^ハ
 珠^{タマ}の^ハ名^ハ所^ハや^ハ秋^ハ北^ハ
 赤^{ベニ}錦^{キン}の^ハ名^ハ所^ハや^ハ秋^ハ北^ハ
 夕^{タタ}日^ヒの^ハ名^ハ所^ハや^ハ秋^ハ北^ハ
 名^ナ鐘^{ショウ}あり^ハ銘^{メイ}の^ハ名^ハ所^ハや^ハ秋^ハ北^ハ
 廣^{ヒロ}相^{サウ}卿^{ケイ}筆^{ヒツ}の^ハ名^ハ所^ハや^ハ秋^ハ北^ハ

新屋へちれを三絶とらふ

新和 うき上人

後勝此のや彼さるる後

人も何れもの身と身とむ

玉ふ 桂大僧言を基

谷うけめ竹松の下をこ

ツクテンキヤタ

○通天橋 東福寺

橋下は玉砌とらふきやう

小舟楓多し ハミヤギ

深然ハ蜀錦の

色にあらう。洛陽の青銀と

を。十月十六日六国山聖一寺

の法舎より関山忌とらふ人

各出細き群衆に

星都てみまの楓此 信徳

往來のか

○正傳寺 西賀茂

源来て東岩禪師の園基に

一山楓樹多し ハミヤギ

紅葉のれ半枝

爛熳 ハミヤギ

楚岸 ハミヤギ

江を移

と。堂後石橋より ハミヤギ

楓を楓

橋とらふ

私のれを後 ハミヤギ

さう ハミヤギ

ヤシホノツカ

○八鹽岡 洛北

長谷邑

昔より丹楓多し ハミヤギ

八塩の名

ちより ハミヤギ

公仕卿出棲 ハミヤギ

所を朗詠谷とらふ ハミヤギ

奥より ハミヤギ

新和 ハミヤギ

紅花 ハミヤギ

へうに ハミヤギ

あふ ハミヤギ

ちろ ハミヤギ

○小倉山 上嵯崎

ニ号院

當院むうとう丹楓の名
こあけやう古かき。奥
時雨亭なり

負信公

小倉山峯北あきやんあは

金多 小倉山峯北あきやんあは

小倉山峯北あきやんあは

小倉山峯北あきやんあは

小倉山峯北あきやんあは

○長岡 洛西

社頭の左右北の汀あ紅葉

連さき。あのもたあは

秋の美あああ

あきやん

○稲荷山 洛東

本社より十八町許山中二の

峯あきやん楓樹多。比山

あきやんあきやんあきやん

あきやんあきやんあきやん

あきやんあきやんあきやん

あきやんあきやんあきやん

あきやんあきやんあきやん

あきやんあきやんあきやん

○戸難瀬 嵐山

大堰川あきやんあきやん

あきやんあきやんあきやん

あきやんあきやんあきやん

あきやんあきやんあきやん

あきやんあきやんあきやん

あきやんあきやんあきやん

あきやんあきやんあきやん

後古

堀川左衛門

とせふ若ふ八幡ときつれど

これん若ふの例をとりたる

後古 大納言公信

ありし山のちふこのまみらん

とせの能ふおとこをこる

勢はれ 後同三司

戸部卿の山も望みおとこに

保てのこぬ勝のちふれを

とせ川をふむきふせせれ

中あふとこをえつるん

○貴布祢 洛北

鞍馬のち僧正合の岩より

見おろけ千林の紅楓風ふ

翻る錦をほふふ

玉葉九月より老布祢へ

ふりてらふみち 賀茂草

おまのえおもめてこふれ

いのち海をふー おとん

○真如堂 洛東

極樂ちとつ公原白川女院の

御所へ近き丹楓長之

てふお米 飲酒ハハハハ

イハカガモミチ 阿保陀仁

○巖牆丹楓 洛東

古へ地ハハ後京岡雄の別荘

おふふをいふ名とん

古今 宮内省久しうつふ後

たつて山里ふちのり作り

くらみちの 後京岡雄

おく山の岩壁おふちりぬへ

ては日のせんる時かくこ

○御製衣紅葉 修学寺

やふふ後水尾院の御宮瑤禪

尼公の御衣創之屋中若菜

典繁りてハ鵬り

あまや八おの傍も急所
け山ち此秋の夕々し

歌中山
清閑也

マダニの倉院寺の側不淨。
ミカト マコヤ アイ
は帝紅葉を愛しのかた

平家物語の足へる後西院の
 ミカトニヒツ
 孝宸帝の御方あり
 けりおまをて受てり

御製

うん 考の立ふ山の如きハ
まうあゝとそれと見へたり

才ム口

○御室丸所社前仁和寺

楓樹收株あり。秋の末ハ紅
錦の色をあらう。又楓樹

多くて秋の興を催ふ

カサキヤ

○竺置山
南山城

古多冊觀多

後醍醐天皇

うゝまふ身を秋風よそへて
とろぬ山のおまふとてみち

ハツカシノモリ

○羽東師杜

城南

徒

後於
二成
之書
の社

（右）
（左）

○梅

トメコムメ
○尋來梅 上賀茂

賀茂の下西行庵より。今

西巻寺と云ふ。又地形四の

折あり尤窪ちと云ふ

敷き今 西行法師

之処ニク梅あり云々云々

潜確居類書曰梅有四貴々

稀不貴繁貴老不貴嫩貴

瘦不貴肥貴含不貴開云

フフヒニクハイ
○鶯宿梅 上京

古西京紀貫之の家より

大鏡曰

天曆の時時々木宮中へ

召し一や女の子をたぎ

引續け侍り

松と

赤あはれと云ふやうなる

宿りて坐すといふあり

て御多し云々云々云々

後世云云云々云々

といふ應仁の後相國の内

移るに樹の残れ今方々の

を云ふなり

○如志満の梅 洛東

祇園の社より

加へて毎本も 宗祇

はうなり名と云 梅云

○櫻紅梅 洛西

梅宮の側あり又北野
聖廟の側あり八市大論
色淡紅シロベニと云ふ附
慶有
寺あり
梅の宮あり
ありとも世のこころさるあ

○卧龍梅 洛陽

五條西洞院大泉寺あり。
親鸞聖人珠教の梅あり。
千瓣白花にて香氣甚し

○鴛鴦梅 小野

聖廟の側あり紅梅あり
一処小苔多くあり故和名

花坐論と云ふ 後作

梅さくやふくもさくを大自在

○碁盤梅 城南

竹田安樂壽院ありむ。
名羽院離宮ありおん時
圍碁イハの碁盤イハ哉
集ありて樹下ユキノに埋めたるあり
此火ふ名と云ふ。花形中輪
淡紅史シロベニ香韻カクしてつもの
種タネの勝マタり

○冬至梅

紅白の二種あり。公梅ハ洛東
聖護院宮御境内の西垣内小
あり。又寺所相國古浴室の側は

あり。又紅きものハ五條御影
堂の内より。何れも子頼あり
小橋之冬月まじりて咲く

○白紅梅 小野

聖廟の側より有。八重なり
香甚

○腹梅 小野

同所東門の牆下ハ二三株
あり。又攝州生田社頭より
有。桃色なり。冬月紅なり。
大輪なり。二月の末に開く

○萼緑梅 小野

同所ハ二株あり。白梅の中ハ

萼は緑なり。枝は白梅の上
なり。冬月。俗に下御霊并
殿の乾き一株あり

○垂絲梅 洛西

等持院前ハ壽院あり。
白花なり。枝は地を
拂ふ糸梅の如し

○八房梅 洛下

東が嶺より白砂あり。八梅ハ
越中の地名ハかの國親重王
人の所蹟より移し梅あり。
冬月。一輪なり。冬ハを結ぶ
信濃梅の如し。冬月

三
カイユウ
○未開紅 洛陽

哲言類云あり。いづれに開き。時紅色の深きなり。

ノキハノムナ
○軒端梅 洛陽

京極泉式部墓上あり。花外紅小中々紅あり。形小なり。花心凹。一名小川梅。又神樂園東北院にもあり。

御製
木の花やそ新花をうけた
風のさそりぬ梅とてとら
ヒヂニクイ
○悲田梅 落葉

御林にあり。名を我洋あり。

トビムメ
○飛梅 洛下

了辻菅原大臣社におあり。御神詠より名所。その花今更けり。其はあれと。梅甚。

ヂンベイヒラキ
○甚兵衛梅 洛北

紙屋川の上鏡石の東北方。此地名を梅の字多し。

フナモリ
○梅溪 伏見

藤柱より南五石を町大亀谷山林及び城山のわき上。海宝寺。或は福壽親老の名。ハ斜峠を都より梅あり。梅は株あり。古希日多し。

花のいふ仲をきく花のうら。
花のいふ仲をきく花のうら。

花のいふ仲をきく花のうら。

○舟園山 洛小

○山の麓に梅多し

○野色山 洛南

小野の南へ土人諺て野色山

こゝに梅多し梅多し

○明王寺 山科陸色

堂前か白梅の花樹多し

○笠取 醍醐東

山林村中に梅多し

○桃 モ

○城山 シロヤ

伏水 フシミ

トヨトミワシコ トヨトミワシコ 豊臣主の古城蕭條たるを

かく満山の桃林を人の氣が

爛熳する紅色を何と云ふ

小枝葉の桃林あり

東涯

叱咤時移霸業空百年

葵麥動春風金湯變作

桃花塢遠近霞蒸千里

紅 自夕

降沿べき火も今も桃の

○瓶原 ミカノハラ

綴喜郡

寺郷ふ多村あり トクハ 桃花多

夫木 先後 花のなきや此生のみを

まののりも今も

○蜘蛛塚 クモノカ

小野

七本松一條の北は院北

西へ松林と云ふ源頼光

土蜘蛛退治する小あき

至古跡を遺す一跡に巡り

○本園寺 ホンコクジ

浴下

此ちの西側大宮通の空地は

桃花数百株あり ヤモヒ 生を

小八郎下のく シムラ 群集する

色以賞む

○^{ヒミ}鴻^{ムラ}邑 名羽の西

六里の西端六桂川^{カシラ}（ニトク）
を較石橋^{カシラ}は植^{ウヅル}と近年此
洪水^{スウ}が多^{オホシ}流^{ナガレ}て今大
荒廢^{ハル}なり

○^{ヤマブキ}歎^ミを

○^{タニカハ}玉川 南山城
玉水

長明金名抄曰井堤元大臣
山吹^{フイ}の愛^{アイ}一^{ヒト}ひく玉川^{タニカハ}此
江^{ミヅ}の深^{フカイ}外^{ソト}へえをひく。花^{ハナ}の輪^{リン}
ハ土器^{コハラキ}の太^{イソ}ふて幾^{イク}もあ
るも花^{ハナ}の盛^{セキ}六^ム黄金^{オウゴン}の堤^{ツツミ}
那^ナをつたうたうやうさ
化^カ新^{シン}おとれて傳^{ツタ}うへん云
今^{イマ}も四^ヨ蹟^{セキ}おわく^ハのまゝ又^{マタ}玉井^{タマイ}
寺^ジといふおまゐり
新^{シン}松^{マツ}老^{ロウ} 小池^{コイケ}小町
いろもどきあり^ハな^ハ蛙^{カエル}啼^{ナレ}
井^イの^ノり^ハな^ハ山吹^{ヤマフキ}の花

新古今

後成

駒のめく様あるは歎かれ
またのちあるか井の玉川

後古

後古

玉川の岩の山吹新入人

名那る波小娃あくる

堀川石首

師頼

かたの鳴井の川此の山吹
屋もあつたの山吹

○小倉山

崖哉
二巻院

寺地公卿へたり歎きの名所

あり。初々前中書王の山莊へ

後松老

雄倉のふた住僧に因のり

作る日義の人の作るは

歎きの枝をわけてるをて作

る人もえさるるをて作

又の山吹のふたよりあり

ふたをえて作るは是れふ

云つる一々歎き明親王

七重八重花をうけし山吹の

ふたれとていふた山吹の

あはれとていふた山吹の

○山吹瀬

半治川

河辺より奥正吉に至る路

琴阪より。左右山吹あり

黄金の色を。花。其のけ

河原より。新と山吹瀬

とつふ

定家

後古
名は此の山吹のふた

宋も白くうらうの河長

教松
ちりちり歎きの山吹の

そ花ふたのうらうの河長

○
藤 フヂ

○安井ヤス
洛東

クニシタレ
觀勝寺光明院と号し奥
ヱトク
社八崇徳天皇とあり世人
フエロ
金比羅推現と称と古より
名所なり

堀川百首

係類

おあひののうたをき
ねのうたをき

延文而首

口

延文百首
さう
けいふのちやうとくみとふ
さうふくはのちのちふ

○金客寺
キニカク
洛小

客お化多し臨み奉る所
水面映しそ素顔より

○圓通寺
洛中
幡枝

屋中の系腸真如子と紫
トク^{ムナ}藤の棚^ヒ有り大悲園通の額ハ^{カシ}
コミツガ^井井^{レン}レン^{ヒン}ニ
後水尾院の宸筆ニ

勸修寺
山科の南

御殿コテンの在中氷室ヒトリムの池スミ邊

小字義の柳あり

堀川原首

乙亥

あけりてさう衣のきけい
るきの北あちるみ

クイキタサニ
桂宮院
ウツリ
左秦
廣隆寺

比園中大酒明神の傍に有

ナラヒノラカ
○雙囀
洛西

ナラヒ
ノラカ

此邊は金剛院及茶店等
小寺あり

○藤杜 洛南
フチノロ

此社の山林小庵蔓々
フチノロ

○月輪 洛東 東福寺
ツキノワ

山林及門前あり小庵

後月輪といふ小庵ありて
え浦ありて共小
庵の前の花を採ひ
てよみ作り 熊宜
菰の根さうとていふを茶
おきひとらぬ彼とてぬ

○祇園 洛東
キヲ

當社石名寺の中西側茶
店あり 藤松茶名店

○上善寺 上京 鞍馬口
ニギセ

庵中茶藤玲瓏
ニギセ

○竹田里 城南
タケダノサト

此里の茶店所 小尼

○山内邑 洛西
ヤマノウチムラ

此村内茶店あり

○北野 洛北
キタノ

聖廟東の内茶店あり
あり

燕子花 カキツハタ

○浄瑠璃寺 ギョウリョウジ 相樂郡 笠置の陣

九時佛といふ堂前の池邊に
一木あり

○臨川寺 リンセンジ 下差峯

佛殿の前此池の中四季咲
けり花紅に

○日野 ヒノ 醍醐の南

法界といふ名は境内に多
かり

○等持院 トウヂイン 洛西

門あり及佛殿の前此の中多

○杜若里 カキツハタヤト 北山

洛中鞍馬の奥別所村に
隣村へ昔より村中に杜若
多し故に名とす

○大佛 ダイブツ 洛東

蓮華王院の堂前此の中多
し
一木あり大木枝の時節殊
に花盛なり

○東寺 トウジ 洛南

伽藍の東北に中寶藏の
めづりや中門の外此の中
あり

○圓山 ニルヤ

洛東

坊中樓前の池中小四季
閑の燕子空所く不見ゆ
かたのちこけりや モミ
ゆるりあのか

○蓮 レン

○平等院 ヒザワツサ 宇治

鳳凰堂の池中多し

○廣隆寺 スナリタ 左秦

茶師堂の池方池中紅
蓮多し

○福寺 フクシ 芳樂

樓門の放生池小あり

○大極池 オホキョク 伏見

池中多し蓮花多
し。近年度々の洪水にて

標^{ヒタリウ} 歴^{リキ} 古^コ 老^ロ 曰^{ハク} 供^{コウ} の ち^チ 年^{ネン}
三^{サン} 年^{ネン} 後^ゴ 付^{ツキ} 八^{ハチ} 蓮^{レン} 根^ネ 自^ジ 然^{ゼン}
と 生^{モト} 一^{イチ} 元^{ゲン} の ち^チ 子^サ 々^ザ と 一^{イチ}

○ 八宗論池 ^{ハツシウロンイキ} 差^サ 我^ガ 清涼寺

釋迦堂の東小町

○ 思園池 ^{シエンチ} 東福寺

山門の前小町 紅毛の蓮多

○ 功德池 ^{クトクチ} 相國寺

○ 綾戸池 ^{アヤトイ} 南禅寺

○ 神宮寺池 ^{カンミウジイ} 八幡

蓮花南方の角一筋へ

○ 枳殼館 ^{キコクヤカン} 車^{クルマ} 六^{ロク} 條^{ジョウ} 東^東 殿^{テン} ト云

○ 東寺 ^{トウジ} 洛南

○ 極樂橋 ^{ガクラクハシ} 黒谷

○ 本園寺 ^{ホンエンジ} 洛下

萩

○大覺寺
タイカク

御内並松尾南々

○御栗栖野ミクリノ

大門^{モリ}村の西にあり。毎

タイダリ
大肉裏の御時
寮に御馬の

ニカサ
 耕を生を所ん又カンビレ
 勸修す此

南も何う。兩所共小救多し

後子
大田言藤人
此松の方を井小井の萩の石

けし、松のうきも、井小波の萩のうき
ちうん、時お、新そを、向ん

新後古

口をへくまや餘あるん

○ 雲母阪 キテ、ガク
比叡山

京師シノイより西明嶽及中堂へ

登山一路あり。半途ハシト水飲

己の所阿。比色をそむたふ

カウタイ
○高臺寺
洛東

著る者名所と世にさる

○ 芳春寺 ハタシ
新熊野 イニクノ

幼の極の樹下みか萩原ハキハラへ

スベリイ
○ 寧石紙
大佛より
山科小寺

トシバケ
峠より東の山林ハ
萩多ク

是は山科西の山太石の旧跡オホイシレ なる地キ

至爲閑適

○松

○雪江松 妙心寺

妙心寺の松中 衡機院の開基
雪江尚此植のひく名
はの初へ

○四派松 同所

妙心寺の六世より宗意四派
小別れ一其證より植匠
とへは地松樹相應を筑四時
共蒼色葉くく氷霜の
標をのりつ

○軒端松 二尊院

凡雅 定家
忍るんあともか 小倉山
おんの松引く久く

○陵松 御室

仁和山門北西一町許園北
間あり。是光孝天皇の帝
陵へ土人笠松とく

○袖摺松 山寄 妙喜菴

松乃根ふ袖を君の 相々
タウカ

○影向松 小池

方山
そのまへ影向なる松の枝
乳向の松引く久く
希因

○松子房松 シラカバノ 車古

櫻雲記曰

後醍醐天皇車古より母山
松子房にて松の葉を向ひふ
大僧正頼意
植ふ一むらやうの葉を
々々のちまをねんのかと

○三鈷松 同所

西之院のおかり

○縣心鎧松 ヨロコケノ 黒谷

熊谷佛門より一時具足公
ちをかきーとん

○御館松 ミタナ 洛下 四條猪熊

一名左刀殿松源義經
此止名和のふと名とん

○降木公 マカリニツ 洛北 一乗寺村

此名古一を平記し出所

。以外永觀堂の來定松又ハ
栗生光明寺の常松松嵯峨
此登天松長池の十六松の松
いふとりて一至つて去
逸なりとれとふと載ぞ

附録

○唐崎一松 カラサキヒトツ 近州 志賀

此名本公當國の界より
そと枝来比該那ん靈樹
那んん洩と平旅旅光林の
血王五尋餘枝葉湖水の江
小益西復 遠く看み翠
巖北ぬ近く眺む時ハ幡龍れ

後松

為家

あてても昔ハ遠くありハ多
ことハ未だのわらう寄のね

風雅

從五位子

かきまねやわらふみやま砂地ハ
まうかきみねハ一かハね

新十

從五位

とね波の立此色ハ保ち
ねををあるふうのうら

口

從五位

はしれー井のみやのふか
ありんをこそま山奇のね

新報

從五位

神代よりわらぬねもまふ
けりまふくハあめハね

新報

從五位

まふくハあめハね
けりまふくハあめハね

新報

從五位

けりまふくハあめハね
けりまふくハあめハね

新報

從五位

けりまふくハあめハね
けりまふくハあめハね

○石

○鴨長明 日野山
方丈石

醍醐の南隣日野村の上外山

の半腰より石上方三間餘

此地の風光方丈記に詳し

近年巖壇彦明碑を建

方丈記曰

この山はもとては山と云ふ

よりてをふたつての山をみ

木霞山伏見此里を野村と云

をては山と云ふ

かくては山と云ふ

をては山と云ふ

をては山と云ふ

をては山と云ふ

をては山と云ふ

をまゝ墓とすべしぬ下畧

○鏡石 カミイシ 洛北

金剛寺北の紙を川の側より。石面皎々として能く影をうつす。

古今名物に云ふハ 母舅之うん王のちまみかきりん後け乳より水もきりる

○乳岩 チイシ 大悲山

石状表平なり裏に乳房十四ありと云ふ乳頭の顔に乳けのやく常におぼろしくなる

○笠置石 カサキノイシ 笠置山上

大般若寺石面佛像の鑿

楠書判石胎内排貝吹石もかんくわく國の志観ん

○石丈石 ヒヤクモリイシ 和束湯舟

大智寺奥院より三間。横三間頂上平なり方十間計。岡山大観禪師一千日坐禪外り其外丈殊石相引岩大鼓岩なり

○亀石 カメイシ 宇佐川 真正寺前

○瑪瑙石 マノウイシ 洛東 光孝寺

手洗鉢に東福門院御寄附有し又大佛妙法院在中あり

○螢石 ホタルイシ 貴布祢川

○蜻蛉石

宇治 三室戸

石面に佛像あり

○起風巖

永井堤山

井より三町計あり。常にお
き岩岩より風を發せし人
風穴といふ

○檜垣塔

浴巾 一葉吉村

葉山觀音の下あり。古雅なり
希代の名器

○白石

二ヶ所

愛宕日暮龍此傳あり。又山科山
白社頭より室公白石庵といふ

○牛石

志賀山嶽

○菜刻石

瓶原 井平尾村

○鯉形石

上拍

○鮎形石

辨天山

兩石毎天社の後の左右あり

○歌石

上出差 三室戸

○寛筭石

九条

箱荷御旅所の右。藏王森の側
より寛筭供奉といふ山伏恨
りて雷といはれし石といふ

○額書石

高雄 神護寺

○屏風石

鳴瀧の西

○九仙八海石 クセンハツカイ 金剛寺
赤木公石 島山石

○諸侯石 シロイミヤウ 銀閣寺

○藤戸岩 フクトノ 醍醐
三寶院

○五丈巖 コチマツカン 牛尾山

○色紙石 レギレ 山斜
十禪寺

明正院上皇リ ミキ 寺名付
初 ハツ

○大峯殿 オホミナトノ 洛陽西園院
一条北

古代の石塔人古へ修驗道の
坊舎なり 由今昔物語不
なり 今生地を大宮辻子
り

○念佛石 子シる 木津
阪

法然上人念佛の功力を
石にて様のふんとす

○不動岩 フトウノイハ 同所
鹿背山

○碁盤石

○石門 イハモン 洛伽
鷹峯寺

○五石羅漢 ヒメツラダシ 深州
石峰寺

○牛若背礪石鞍馬 カレワカセクラヘ

○安慶北耳競石八瀬 ベンタイセツラヘ

○冠石 カブリ 洛北小野
又竹田安樂
壽院

○大燈爐トウロ 南禪寺

○次信忠信塔ツキノタタノタツタ 大佛

○西芳寺サイハクシ 洛西葉室

後醍醐天皇殿地蔵共小庭中の石を移すといふ

○要石カキメ 歌中山清南寺

此地より洛陽を平したる扇の形小見ゆ故に名をたし一説曰六條院陵といふ

○瑩窟ホタルノイハズ 知恩院山上

○氏生石スレシヤ 同所山下

○和尚石ツハシヤウシキ 日所客殿庭中

謠曰慈鎮和尚坐る上にて眞舊泉の哥吟し後の人ことと見走謬に安は日枝山下東坂中ふての字に

○五智山コチサン 吟龍オヒタキ

五智如来及石像多り古代の化へ

○仙遊石センユウシ 洛東泉涌寺

○獅子石シシイシ 大原勝林院

○佛足石ブツソクシ 柵尾

○五寶石ゴホウセキ 東寺

庭湖石

北麓我
大沢池

山家

西行

庭の石ふのりて
かゝるる備はま
とく

喜撰岩

宇治
喜撰岩

長明寺名抄曰三室戸は奥に

余計計山中へ入て空谷の森撰

う佳き流りて家かかれと堂の

礎さころをよれ必りて居る

べんりて云 空谷あり三里可て
桂川北山頂より

さ其丈斗此巖座なりて其中に二天
斗れる様の行てれあゝゆるる面や

久明なり

熊野影岩梅宮

紫雲石

黒谷

辨慶石

推言願寺
方丈屋中

昔三条京極の西より今所
れ名なり

虎石

東大谷
廟上

初ハ万里小洛押小洛北角之
坊善法院なり是親鸞

聖人の舎弟深看僧都此寺に

今小虎石町と

石神

洛陽
上立賣

古ハ大内東北内よりこふ

尋今此地あり又岩上六角小

石上明神と称れ

衣袋石

祇園

經王石

小岩倉
石堂社前

菅神
○登天石 比叡山東塔

遺教坊北門ありて法
性坊の四角に

○青龍石 同山西塔

千手院大藏ふり形龍此
口をゆるくかへり

○羅漢石 同山横川

寺外や山又名るやあり
冷海志不足へたり

○岩 岨 洛東
西大谷

○坐禪石 山嵐山

○烏帽子石 本園古

○文字岨 山岩屋山

○香水岨 同山

○夜光石 西本願寺

境池飛雲閣在中あり

○文房四神碑 洛下
不動堂

道祖神社前ふりて碑石

洛陽の名石ありて載る

筆塚阿野公繩頭銘石白

駒筆ハ鳥石

○住言石 矢背

○觀音石

○夫婦石 西山
楊谷

○千石岩 如意嶽

○影向石

新熊野 劔宮

○双玉水鉢

泉涌ち

○雛形石燈

本園ち

○假腫水鉢

口所

○女丈石

錦天神

は外神石影向石坐禪名の石
挙て心算くーお小器ん

○飛泉

○明神瀧

笠置奥 大河原

比叺山城伊賀の堀に依り

雄臺と云二を雌臺と云

高石寺大許出巖石の岨

より光佳景へ

○久多瀧

大悲山

ホウシマシオシサ
峯斗定古奥院と銘凡岡山

觀空上人入定の瀧と云今も

讀經の聲を聞かば一速く

耳底の客とありぬ水を流ひ

て山中ふりて松間の所

飛泉の音と云一法ふとも

竜神龍 リウジンリウ 綴喜郡 多賀村

天王祠の奥あり。龍の宮

八木斗社とあり。下流ハ

木津川とあり。みづは川と云

〇児龍 チユウリウ 相樂郡 上石市村

下流を石川といふ。石と

木津川へ入る

〇鯛龍 タイリウ 愛宕山 月輪

下流ハ木津川へ入る

〇菩提龍 ホツタイリウ 洛和 千束

〇千手龍 センシュリウ 鷲峰山

此下流ハ五光山と云ふ。三

〇虎龍 カラヒツリウ 市辺 椎尾山

〇白川龍 シラカハリウ 洛東

後撰 モリ川の龍と云ふ。中

〇戸難瀬龍 トナセリウ 嵐山

金と 大川敷と云ふ。中

〇竜 リウ 久明親王

〇竜 リウ 大原

〇竜 リウ 末遠

〇竜 リウ 翠山

〇竜 リウ 菅野

〇竜 リウ 後

〇竜 リウ 久明親王

〇竜 リウ 大原

〇竜 リウ 末遠

〇竜 リウ 翠山

〇竜 リウ 菅野

[illegible]

支不

まふ
小井山西のえき新は、
老をいふにぬき神うか

老所ふ之めく神家

○翁淹
西山志

アエモトリク
鮎尻ノ龍
ウレオヤ
牛尾山

樓門滝
鹿谷

○ 目 手 輪 リ 瀧
松ヶ寄

下流ノ月臨於阿

○韻王淹
貴舩

○ 鶯籠
瓶原品村

○衣
衾
口所

○ 茗羽庵 ヲトハ
唐水 キヨミツ

みづり小使の山の麓はせ
公をみちのよみそめ

之月や居あち此
信徳
備すのみぞ

○ 泪ナミダ
寵
鞍馬シラハ

○ 岩倉イシクラ 兩所

西岩倉六
一勝二勝三勝
小岩倉六小庵人

龍門澆

○飛龍滝
岩屋山

○ 駒ヶ嶺
南禪寺

駒僧正入定の滝へ傳ふ祠コニノタキ

神仙佳境と称す

○老龍

相樂郡 園村

○不動龍

玄母阪

○音羽滝

日枝山 又山科 牛尾山

修善寺

主えの山ありまお殿と云ふ所の

老龍と云ふ所のありまお殿と云ふ所の

龍中前言歌忠西坂を此山と云ふ

龍此山と云ふ所のありまお殿と云ふ所の

龍お川と云ふ所のありまお殿と云ふ所の

人の心此みえと云ふ所のありまお殿と云ふ所の

山科の吉羽の川此と云ふ所のありまお殿と云ふ所の

此外小龍のありまお殿と云ふ所のありまお殿と云ふ所の

○清水

○井上社

下鴨

皇都第一の名水とて寒暑不増減なり。下流はみづと云ふ

金基

園基

きつと云ふ所のありまお殿と云ふ所のありまお殿と云ふ所の

うへのかきと云ふ所のありまお殿と云ふ所のありまお殿と云ふ所の

新龍 新龍のありまお殿と云ふ所のありまお殿と云ふ所の

うへのかきと云ふ所のありまお殿と云ふ所のありまお殿と云ふ所の

新龍 新龍のありまお殿と云ふ所のありまお殿と云ふ所の

うへのかきと云ふ所のありまお殿と云ふ所のありまお殿と云ふ所の

○金龍水

上京 室町頭

洛中の名水茶湯不可なり

室町大心和尚銘文なり。原代

地、足利義満公の鑑花御所
と号し。又室町殿と移し
東方紀傳曰

永和四年の春二月將軍北条
の時、御所を花とつ
た、ゆゑに室町殿と移し
管見記曰

永享五年十一月五日室町館
泉殿御移徙也

○和泉井 イッミナ 鳥丸 カミエ
中書院南
法隆寺に紅と白と不可入

○肉桂水 ニシキ 新町 ニシキ
六角南

後冷し自然香氣あり

○水洗水 テマクシミツ 鳥丸 カミエ
錦北

古へ祇園御旅所のみと
毎歲六月七日より十四日を井と

関く諸人これを飲む疾を治
くといふ

○佐女牛井 サメウシ 醒井 サメカ
六条北

弟不可人少そ昔よりこれを
賞と鐵田有樂安井幹
小久多公鑄其文曰

佐女牛井

元和二年
有樂再建之

洛陽の名水や井幹此
上にも後儒で五六十
年已あ南隣の人あ
あ裁ふ井は堀内因
あ脉裏へいん涌
ゆくー常の井此如
を此年の火災より

瓦石カキイシ埋カモ荒カサ廢カサ寺ノコと云今
茶道家サダカ教内氏ヤフネ瓦石カキイシは家
首サキのやく再興サイキョウするふ

○古醒井コナメカ井 西本願寺
一名醒眠泉サマミセン

滴翠園テキスイエン 俗ユクふ寺ノコふあり
御門主ミカドヌシ文如上人モンニョウジョウの碑イシに

○竹根水セリ子ノミツ 堀川
七条南

近年書家レヨカウ鳥石翁キウシユウ井幹イダノと
入レ標石ヒョウシを建タ又公卿クノキミの詩
歌カを聚アツむ

○水樂師ミツヤクシ 西七條
レイエン
聖泉レイエンより寒暑カンショ表ヒラ増減ゾウケンを

俗説ヨクセツ云平氏ヘイリ威イ西八条サイハチジョウ不在
一時イチトキ熱病ネツビョウを現アワえとてま
あ飲ノミ一死イチシあふお若ニハふハ
叡山エイサン千子院チコインの廟アカ御ミコ井イを運ハコバ一
々ツツとある

○誕生水タニシヤクスイ 大通寺
源満仲公ゲンマンチュウ誕生タニシヤクの時トキ孝陽ウハユ不
用ヨウひーと云

○田面井タメシツ 本園寺
一名龜井 本堂西

○鶴井ツル 同寺中
多門院

○松蔭井マツカゲ 同寺中
持珠院

○真如水マニミ 同寺中
真如院

○鏡井 カミ 五糸 御影堂

○菅神 カニシ 誕俗井 タニソコ 菅大臣

烏石碑銘を書と

○中川井 ナカカハ 系後 妙満寺

○云あ井 クモミツ 系後 遣迎院

同名神樂園東北院より

○少將井 モタキダ 鳥丸夷川 北人家

○梅雨井 ツユ 下長者町 泉町西

久系梅雨晴七日計張を
原出より井幹以紙に記し
とるに又加増生山田原野
村よりなり

○千代井 チヨ 五丁 本陣寺

○法然氷 フタニ 相國寺 松鷗軒

原八世地賀系神宮より
法然上人より伝わり

○縣之井 アガタ 内裏乾 堂上系

後後無
極めく何ぞ此井と云ふ
候や左の山吹乃に在

○小野小田 コノノ 一条系満 謝後廟

○晴明水 セイメイ 右同所

○羽二重井 ハフタヘ 系後 誓願寺

○天真井 アミノマナ 下寺町 市郷社

○獨鈷水

大和六路
道達院

○泉涌水

泉涌寺

○夜泣水

大佛

○覺明水

清閑寺

○山北井

靈山

○菊潭水

高臺寺

○蛙の水

安井前

○菊水

下河原

○蓮華水

長樂寺

○吉水

丸山

○第壹水

知恩院
芳至堂

○小鍛冶井

同所
山門の下

○ち子水

同所
御殿内

○蹴上水

三条
栗田山

○金生水

山科
牛尾山

○善喜水

鹿谷
万無寺

○阿伽井

元真如堂

○明星水

吉田

山差我
法輪寺

ウスナ
太牽

木嶋杜

洛西の名水元糸モトイトとよ

○野宮清水
西院
四條西

大原學
春日日

善山

楊谷

同所

西園省院村
成就院

下久世

千載 後志士何
古つれ板舟のあまのいみじをそ
月こゝろをうんあふはるるを

吉祥院

書家烏石碑を建

八幡山

乃迎小名井河り

筒井福井後井

赤井己上五清泉と云

伏水
墨空海町

同所
七車町

茶碗子 チヤン 石峰寺 イシホウ

寺田乃名水 テラノナミヅ 茶不可 チヤカ 遠近 トウキン 公賞 コウショウ

御香水 ミカドスミヤ 御香宮 ミカドスミヤ

常盤井 トキハシ 豊後橋 フニゴハレ 北二町

小町水 コマチ 小野 コノ 隨心院

醍醐水 タイコ 上醍醐 カミタイコ

弘法水 コウハフ 日野山 ヒノ

金涌水 キンユ 佛國寺 ブツクニ

弟不可 ニヤカ 早水 ハヤミヅ 堀

三間水 サンマノミツ 宇治橋 ウジハシ

山州乃名水 サンシュノナミヅ 瀬田北橋下 セタキハシノモト 龍宮 リウクウ 涌出 ユウシュ 水 ミヅ 新 シン へ

流來 リウライ といふ トイフ 説 セツ 八竹生 ハチタケナリ

峠 ツツミ 天社 テンシャ 檀 ダン の下 ノモト 水 ミヅ ち チ 涌出 ユウシュ といふ トイフ 秀吉 ヒデヨシ 公 キミ 桑 クサ 不 フ 佳 カ といふ トイフ 早水 ハヤミヅ といふ トイフ

法華水 ホケ 平宮院 ヘイミヤ

石月井 イシツキ 宇治 ウジ 旧番町 キウバン

馬足洗水 ウマタラシ 鷲峰山 シユホウ

加持水 カチ 龜井 カメ 宇治國永 ウジクニノコ 岩本 イワモト 真言院 マコトノミヤ

○玉タマ水ミヅ

クミシツサト
玉水里

王、

復成

多た之ー井の下夢りめろ
あふせふーた玉川のいあ
新千 夜ア行観

夜行

孝山

ア、永き

往

川

維新志士阿部武王川口

新板

大紅言傳

みよのまゝに

後二子為正統王

○姜國康

相系昭
孝友田村

○
原山清水

門郡
原山村

○足跡清水

乙訓郡
大谷村

大道修源此足跡方涌出

六尺斗五の指分明く

○ 毎天スイ

門邪
沓樹材

○觀音水

久世郡
奇田村

○耳露水

伏見街
井戸

○ 蛭子水

四糸油小路

○柳乃水

西門院
三條

○ 榎井 サクラ

一条
横并过

○索井

井肉村

泉殿井

田村

○岩壺清

北山差我
大沢

此外名此所一也
 多く取り返る通原
 あり記す

ホトキス
 郭公

ヨトガ
 淀河 淀城

松き
 伊予はゆそりえけ
 一のぼろすこ夜半をふ
 時多まのる淀のる車

レケツノモリ
 拾月林 伏水

玉ふ
 あつれやうに伏見の里ふき
 加つひるをわくまんの
 迷子のかやで血を相々

イナリヤニ
 稻荷山 洛南

金葉
 いち山石やきりか
 まのふきりのわん
 稲荷山紙てやまのり
 山石のり

小倉山

嵯峨

後撰
いづれを山乃わき
あはれをわきとよとのま

賀茂

築式ア

新古
けちをわきわきとわき
杜のまよまやめれや

松尾

おね内務

玉茂
時をわきわきとわき
きくわきまのわきま

大平野

洛西

後撰
大平や小倉の山北郭
ふか神代のわきま

暗部山

鞍馬山の
一名人

後撰
こよみまの山北
わきまをわきま
なまの山郭
うまの山郭

神樂岡

洛東

千載
後一條院北條八講
樹院すつわの神
樂岡そ子規のわきま

いづれをわきま
あはれをわきま

浄瑠璃寺

笠置

岩藏

益村

岩倉北女志す
時を

常盤杜

洛西

後撰
郭公ふりそわき
とらわ杜北み月雨の

北野

洛北
涼免

春をわきま

○寂光院 サツクワノミヤ 大原

○劔宮 ツルギノミヤ 新熊野 イニクノ

○老坂 オヒノサカ 聖原西 オホハラ

○鶉 ウツラ

○深草 フカクサ 洛南

○スミ 八て鶉ハハレテ野平 ナガサ

○ナカ 千載 チサイ 後成 アトナリ

○チ 余州ア チ 竹のち山此々方方小 チ

○イハタラノ 石田小形 イハタラノ 醍醐 チ

○イハタラノ 栗栖小野 イハタラノ 山科 イハタラノ

○水鳥 ミツトリ 鴛鴦鴨 フシトリカモ
千鳥

○龍安寺 リウアンシ 洛北

レウウ 初冬より池の面を参る
戯る者観之者多し

○巨椋入江 オグライエ 伏水 フレミ

ハツ 方丈里餘此江に於て冬
にハハ多き郡聚る
眺む多し

○伏水澤田 フレミツバタ 洛西

ミヌ 三栖此西天武彦此社の四方
横大路の多し一面ハ田
ありあり多し

○放生川 オウビウカハ 八幡

○宇治川 ウヂカハ
鵜飼鶴多し

○淀川 ヨドカハ

千鳥鴨多し

○香羽田 トハタ

カハ 此田をうんぬの者此 蘇芳

○狹川 キウカハ 山崎

カハ 此社を合 爲氏
これより多に多き群し
これより多し今も多し

○大澤池 オホワザイシ 小嵯峨

オホワザイシ 女御所
此より多し此余の多し
此世を多し此の多し

○唐沢池 右門所

永徳寺

池のほとりには松とこゝろ入る
おとろやさしの松が晴らん

現存

さよふつりしきりおき
うれ方床や今あらん

ハナシのミナミ

○法成就池 神泉苑

堀川町

肥後

池のほとりには松とこゝろ入る
おとろやさしの松が晴らん

○鹿 上カ

○瓜生山 ワリフサン 北白川

秋の松

りんききめくた瓜生山
まのまのり一帯も晴らん

○小塩山 コシ 西山

後山

さよふつり秋の名松は小塩山
おとろやさしの松が晴らん

○三室戸山 ミムロトヤマ 宇治

小倉山

古今

嵯峨 貫之

夕月夜小倉の山小倉常麻此
夕月の因や秋ハクハク
新千 鎌倉史臣
夕月ハ昔より小倉山
山のごくけふ麻とは常あり

松尾

洛西

比叡草室松室石石のりう

名所

寂光院

大原

建禮門院はもと住のり
時後白河院より寺あり
夕月是弘大原御幸より
後白河院
山里ハ秋ハ夜更に表あり
とこより寺あり麻此は常あり

長岡

洛西

水尾

愛宕

鹿背山

相樂郡

笠置山

門郡

新後撰
夕月ハ口を衣や松あり
書祐山北梅の麻此は常あり

神南備山

新井

北吉野

綺田

椎尾山

長池東

○螢 ホタル

○宇治 ウヂ

平等院
川辺

生水色ハむらうをりてり雲多
く都下の驛人舟ちり
めりてり夜目花女成權
と是を宇治の若良くみふ
家集
ふまの管花散るるも
玉に花散乃みふ花散
俗説ハ宇治の管ハ頼政此
亡魂ありとふまの川へ
係三位文武の雄將殊ハ歌道
此連人ハ前是此討死ハ平
家への表ありて安ハ為懷國
退去者ハ此表ありて

亡魂ハまみりちちこをれ

かこふ合戦ありふれを

勢多れおひちちをれ

○貴船川 キフネ

後松毛

川之表ア

あふんはまはるわつちを

○みづ川

貫茂

新後保

菅目

みづ川林たをぬるるを

○朧河 オロカ

大系

後子

園を

管そふ朧河をりてり

○喜羽川 キトハ

山科

○小野 北山

新松 法寺 宇信
秋をた小め 篠木 五木の
りきうて 木みり 虫之那

○大井川 桂里

下流の梅屋 桂ふ多し
後千 三三 佐高子
大井川 せふと いるや 火ふ
り ぬ虫のぞろ ありん

○宇多川 又仁智川 川もよ

○高野川

山麓の川 解ふ多し

○虫

○賀茂 洛北

禁秘抄曰
松虫 鈴虫 類人々 進之 或被
召賀茂 社司 云 此流 例と
今 社司 虫 蒐 公 小 子

○嵯峨野 洛西

禁秘抄曰
堀川院 御時 頭已下 向 嵯峨
野 誠有 道 遂是 給 虫 屋 向
選 虫 奉之 云 出 選 の 事
方々 訪 書 ふ 及 子

○御廟野 山科

○桂里 洛西

○祇園女御四^{ギョウニョウゴウシ} 洛東 双林寺前

○惟子^{カクビラガツチ} 辻 崖我

○双^{フタヒノヲカ} 岡 洛西

物^{モノ}一^{ヒト}と虫^{ムシ}を^をあ^あみ^みる^るあ^あ月^{ツキ}
夕^{タタ}暮^ムけ^けを^をあ^あみ^みる^る中^{ナカ}小^コ
灯^{トウ}を^を提^提り^りと^とう^うれ^れ
虫^{ムシ}の^のあ^あみ^みる^るあ^あ月^{ツキ}
小^コの^のあ^あみ^みる^るあ^あ月^{ツキ}
虫^{ムシ}の^のあ^あみ^みる^るあ^あ月^{ツキ}
小^コの^のあ^あみ^みる^るあ^あ月^{ツキ}

籬^シ鳥^ト先生^{シヤウシヤウ}著^{シヤク}述^{ショ}之内^{ノウチ}
永昌堂藏版書目

都名所圖會 六冊

同 拾遺 五冊

京^{キョウ}の^のあ^あみ^みる^るあ^あ月^{ツキ}
圖二面 書三卷

大和名所圖會 七卷

信長記拾遺 十卷

誹諧早作 懷中本 一冊

下畧

寛政五歲癸丑
弥生吉辰

平安書房

吉野屋為八

111111



武庫川女子大学図書館

00827297